

講座6

安心な住環境を維持するために

大災害時代を生き抜くために
“わがこと意識”を持つことが重要です

〈講師〉
兵庫県立大学環境人間学部
木村 玲欧
(きむら れお)

災害は「頻繁に発生するリスク」!

自然災害が大きな被害をもたらす昨今、災害は「めったに起きないもの」ではなく、「頻繁に発生し、その度に命を脅かすもの」と認識しましょう。

●大切な「わがこと意識」

自分たちに身近なこととして、自分たちに引き付けて考え、自分たちのことのように意識することを言います。

わがことと思わなければ、人はなかなか行動に移しません。

●2024年8月8日の日向灘地震

南海トラフ地震の発生可能性が通常より相対的に高まったと評価され、2019年の運用開始以来、初めて南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が気象庁から発表されました。日頃からの地震への備え(非常用持ち出し袋の準備など)を再確認し、地震発生に備えましょう。

<突っ張り棒だけではだめな、長周期地震動への備え>

宮崎市のマンションの12階で、壁一面の棚が倒れてくる被害がありました。高層階特有の揺れへのさらなる備えが求められます。

何も知らなければ「すべてが想定外」

●被害を知る

①ケガ

近年発生した地震によるケガの原因は、家具類の転倒・落下・移動が約3~5割

②火災

転倒・落下した家具などが電気ストーブなどの電源スイッチを押し、付近の燃えやすいものへ着火することもある

③避難障害

転倒や移動しやすい家具類は、避難経路を塞いだり、飛び出した引き出しでケガをしたり、避難の妨げにならぬよう、避難通路や出入口周辺に置かない

⇒自分たちの身を守るには、家具類の転倒・落下・移動防止対策が重要。

●対策を講じる

①収納方法や家具のレイアウトを工夫

- ・「寝る」、「座る」周辺にはなるべく置かない
- ・置く場合は背の低い家具か、置き方を工夫
- ・避難経路や出入口付近には置かない
- ・棚は重いものを下に収納して重心を低くすると、倒れにくい
- ・書棚などは転倒防止器具と併せて扉開放防止器具や収容物落下防止器具を設置する

②家の中に「安全空間」(寝室、自宅内廊下など)を作る

③生き残るための部屋の総点検

⇒管理組合として、「想定外」をなくすための啓発は重要。

【典拠:東京消防庁 家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック(令和6年1月発行)、内閣府(2009.3)減災のてびき(平成19年版、20年版の一部改変)】

大阪市のマンション防災対策

大阪府には南海トラフ以外も地震を引き起こす可能性のある活断層が複数存在するので、大阪市はマンション向け防災対策を実施しています。

●防災力強化マンション認定制度

ハードとソフトの両面で防災力が強化されたマンションを「防災力強化マンション」として認定する制度。



大阪市防災力強化
マンション認定制度

●既存マンション向け防災力向上アクションプラン策定マニュアル

先の制度は「防災力向上アクションプラン」の策定を義務付けており、既存マンションの策定を支援するマニュアルを整えています。大規模

災害に対応するため、お住まいのマンションの「防災力向上アクションプラン」を管理組合の皆様で策定し、防災力の向上に取り組みましょう。



既存マンション向け
防災力向上アクションプラン
策定マニュアル

【簡単な防災訓練の紹介】

●<くじ引き演習>

<概要>

様々な事象が発生したと仮定して、誰が何をすべきか「わがこと意識」で討議する。

<やり方>

- 1.4~5人のグループを作る
- 2.全員で(起きてほしくないことを書いた)くじを作り、くじ引き箱に入れる
- 3.誰かが1枚くじを引き、くじに書かれた事象が発生したと想定し、具体的に「誰が」「何をするのか」ホワイトボードに時系列で書き出す
- 4.書き出した対策の順番や、実行可能かを検証し、分からなかったことは課題として、後に見直す
- 5.複数枚のくじを引いて、複数の事象の対応策の検討や、発災2日目、3日目などの対応を検証することもできる

<この演習の長所>

- ・準備が簡単
- ・短時間なので繰り返して行いやすい
- ・地震のほか様々な事象の対応を考えることができる
- ・複数人で取り組むので、それぞれの考え方を学び合うことや、検証することができる

計画・マニュアルは、使ってはじめて完成する

危機管理のPDCAサイクル…「計画」を「訓練」で検証して実用性を高める

- P.計画を立てる
- D.計画を確かめる訓練する
- C.訓練結果から計画を評価する
- A.評価を基に計画を更新する

誤解されたPDCAサイクル…計画作成が目的になり、訓練で検証されない

- P.計画を立てることを計画する
- D.計画(案)を立てる
- C.関係部局に内容や表記を確認する
- A.(案)を取って計画を確定する

●訓練を「PDCAサイクル」に乗せる

①「訓練担当を決めて訓練を企画してもらう」

- ・各自の自発的な態度には期待しない(わがこと意識の醸成)
- ・訓練は短くて簡単なものをいくつか企画(参加者の負担軽減とコミットメントを意識)
- ・必ず組織のトップにも参加してもらう(危機管理の重要性の意識づけ)

②訓練直後に必ず「振り返り」をして次回につなげる

- ・「訓練をやって効果的だった/よかった」と結論付ける
- ・「計画の改定」と「次回以降の訓練開催」を確約する(参考)大阪市北区役所ホームページ(マンションコミュニティ支援事業「マンション防災の取組紹介」)

「安全・安心は自分たちで作るもの」

●危機は「その場しのぎ」では対応できない

実際に災害が起こると、普段していることさえなかなか上手くできません。ましてや、普段していない・考えていないことはできるはずがありません。これまでの知恵・教訓を学び、自分たちの弱点や問題を知り、計画を訓練などを通して実現させていくことで、危機への対応力、応用力を上げて、「あわてない」状況をつくりましょう。学習は裏切りません。